

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

地域名

三浦市・南下浦地区

人権課題

子ども・女性・高齢者・外国人・ハンセン病患者等

目標・人権教育のねらい

- ・人権教育の授業実践を通して、違いを受け入れたり様々な生き方があることを知る
- ・児童生徒だけではなく、教師自身も人権課題を学びながら、授業を通して一緒に学んでいく
- ・全ての子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにする

各組織の動き・役割等

人権教育総合推進会議

人権課題について研修を行い、人権教育担当教員の知識を高め、担当としての役割を確認した。また、各校の実践を交流し、市内の学校に広げた。

神奈川県教育委員会

三浦市立南下浦中学校：「ハンセン病患者等」について歴史から学んだ。

三浦市教育委員会

三浦市立南下浦小学校：外国人の人権を国際理解教育を基盤に、資料を通じて学んだ。

三浦市立剣崎小学校：道徳の授業と関連し、ハンセン病等について学んだ。

三浦市社会福祉協議会

三浦市立旭小学校：高齢者の人権について、推進校を代表して公開授業を実施した。

三浦市立上宮田小学校：男女共同参画の視点を持ち、女性の人権について学んだ。

校種間連携の概要

- ・人権教育総合推進会議において、各校の取組を共有し、実践を広げることができた。
- ・公開授業後の研究会において、小・中学校の学び方について情報交換をすることができた。

地域・関係機関との連携の概要

- ・福祉体験等は、三浦市社会福祉協議会の協力を得ながら体験的に学ぶことができた。また、地域の方の体験をもとにした講話により、興味関心を高めながら意欲的に学ぶことができた。

事業成果

- ・知識的側面：資料提示、講師の講話を通して、様々な人権課題を正しく理解できた。
- ・価値・態度的側面：「友達のいいところを見つけたり、認めたりすることができているか」が小・中学校ともに90%の回答があり、相手を理解するために自分自身が学んでいくことの大切さに気付くことができた。
- ・技能的側面：「問題の解決に向けて、自分で考え、進んで取り組むことができたか」が小学校で87%の回答があり、自分だったらどのように行動するかなど、課題解決に向けて主体的に考えることができた。